

# NJ 素流協 News

平成27年12月10日

第131号

平成27年12月10日発行・発行所 ノースジャパン素材流通協同組合 〒020-0024 盛岡市菜園1丁目3-6 (農林会館5階)  
TEL 019(652)7227 / FAX 019(654)8533 / <http://www.soryukyo.or.jp/index.html>

## 東北地区広域原木流通協議会 原木安定供給研修会を開催

東北地区広域原木流通協議会は原木安定供給研修会(川上の部)を11月5〜6日に開催し、室内及び現地での研修を行った。

### ▽室内研修

5日に盛岡市内のホテルで開催した林業講演会(ノースジャパン素材流通協同組合と共催)では、北海道立総合研究機構森林研究本



部の酒井明香氏に「木質バイオマスを効率的に搬出するために北海道での事例と搬出コストについて」をテーマにご講演いただき、関係者約100名が聴講した。講演の内容は次号で紹介する。

### ▽現地研修① 岩手県森連盛岡木材流通センター「松市」

続いて、協議会構成員約30名は矢巾町煙山の岩手県森林組合連合会盛岡木材流通センターを訪れ、同会木材部長の田口清治氏にご案内いただき、同日開催された「松市」の結果や最近の市況について、実物を見ながら説明を聞いた。

盛岡木材流通センターの平成26年度取扱総数量は5万2315㎡で、このうち生産現場からの直送分を除く市売り分の取扱量は4万8221㎡(針葉樹2万6321㎡、広葉樹2万1900㎡)であ

る。針葉樹取扱金額の樹種別内訳はスギ44%、アカマツ33%、カラマツ22%、その他1%となっており、広葉樹の内訳はナラ38%、クリ25%、ケヤキ7%、ホオ4%、オニグルミ4%等となっている。

広葉樹は最近ナラを中心に価格が安定しており、ナラは薪用でも1万2000円/㎡を超えるとのこと。また10月22日に開催された秋季優良材展示即売会(前期)では、クロガキが122万8070円/㎡で落札され話題になった。

クロガキとは、カキの材に墨のような黒い模様が入ったもので、古木に稀に見られる。今回出品されたのは「孔雀杓」や「葡萄杓」と呼ばれる模様が入った非常に珍しいものである。用途は大きなも



最高値がついたクロガキの2番玉(20万円/㎡)

のでは床柱等、小さなものでは茶道具や各種工芸品等に使われる。

この日開催された「松市」ではアカマツ優良材約900m<sup>3</sup>が出品され、売上は1700万円、落札率は83%だった。ほとんどは樹齢90年以上のものである。アカマツは、材の赤みの強いもの、目が細かくはつきりしているものに高値がつき、同じ長さ・直径でも単価に大きな差がつくことである。

最高値がついたのは大樹町産の樹齢150年、長級3m、径級60cmのもので、落札単価は25万8000



最高値がついたアカマツ(25万8000円/m<sup>3</sup>)

0円/m<sup>3</sup>だった。このような材は重要文化財等に使われるという。

▽現地研修② 立木からの素材生産及び素材のトラック輸送

翌6日は岩手町川口地内の横澤林業(株)伐採作業地において研修を行った。はじめに同社の代表取締役横澤孝一氏、専務取締役横澤孝志氏から素材生産の作業システム等についてご説明いただいた。



横澤社長の説明を聞く参加者

同社は岩手県内でも有数の林業・素材生産事業体で、平成26年度の年間素材生産量は1万6000m<sup>3</sup>、植栽面積50ha、下刈り面積は200haとなっている。基本的に伐採

後は地拵、植栽、下刈を行って林を森林所有者に返還しており、森林資源の循環利用のモデルとなっている。また作業道を作る際は、

できる限りトラックが入れる規格の道路を作ることとしており、搬出コストが抑えられるほか、後々の保育作業や森林管理にも役立っているとのことである。

この現場では、伐倒(チェンソー) ↓集材(グラップル) ↓造材(ハーベスタ) ↓植積み(グラップル) ↓搬出(トラック) という作業システムが採用されている。ハーベスタで伐倒すると伐根が高く残り

植栽作業に支障が生じるため、植



9月に導入したハーベスタ(ケトー150S)による造材の様子

栽を行う場合はチェンソーで伐倒を行うそうである。今回は実際にハーベスタによる造材作業を行っていたいただいた。

続いて、盛岡市の(株)古里木材物流代表取締役嶋山正氏から、生産された素材の運搬についてご説明いただいた。同社では狭い林道も走れる14トントラックを導入し、現場からの搬出に活用している。こちらも実際にトラックへの積み込み作業を行っていただいた。



トラックへの積み込みの様子

お忙しい中、快く講師をお引き受けいただいた皆様に、紙面をお借りして厚く感謝申し上げます。

視察報告

欧州での林業機械展とドイツ・オーストリア国境地帯の森林の視察研修 (その1)

経営企画部長 外館 聖八朗

この度、当組合の配慮によりオーストリアで開催される林業機械展とドイツ南部からオーストリア西部にかけての森林地帯の視察研修に参加したので、その内容について報告します。

ドイツ入りした。

丁度イスラム空爆による難民がヨーロッパに押しかけているときに、空港での入国審査はベルトは外す、ポケットの中身はすべて出すなど厳しいものであった。

本研修は「鹿児島県素材流通協同組合連合会」が企画したもので、東京大学大学院教授酒井秀夫先生を団長とする一行19名による、10月3日(土)～9日(金)の6泊7日の研修である。当組合関係者としては、青森県国有林材生産協同組合坪晃理事長と(有)丸大県北農林大粒来仁孝社長、ふるさと木材の畠山辰也代表、外館の4名であった。羽田空港を離陸して12・5時間後にフランクフルト空港に着陸し

すぐに南東に位置するミュンヘンへ空路で移動し、最初の宿泊となった。かつて、「札幌・ミュンヘン・ミルウォーキー」と言われたとおり、ビールの産地であり、16日間に約600万人が訪れると言われるビール祭りが丁度開催されており、さつそく祭り会場へ出かけたが、ビールを飲める席など無く、会場外の店先で外国での初ビールを飲んだ。翌日から視察研修となり、バスでの研修コースは、ミュンヘンから機械展会場の隣国オーストリア

リンツ市へ移動し、機械展視察後はドナウ川沿いに遡ってドイツへ戻るコースで、移動途中、森林状況や木質ボイラーの製造工場を視察見学した。▽アストロフオーマ林業機械展 欧州での林業機械展には大きなものが3つあり、それらが4年毎に開催されている。今回視察したのがその1つであり、オーストリア北部のリンツ市に近接するアストロフオーマ村で開催されるアストロフオーマ機械展である。その機械展は単に機械を展示するだけでなく、伐採や集材等の実演が行われる機械展であり、特に、架線系の展示に特徴があると言われている。そのこともあり、理事長からはこれからの搬出は架線系を考慮しなければならぬので、架線による搬出についてよく勉強してくるようにとの下命もあった。視察してみて、まず第一に驚いたのがその展示コースの長さである。何しろ、朝の8時30分過ぎにス

タートして、一巡して戻って来たのが午後4時少し前であった。途中で少し休憩したものの7時間も歩きっぱなしであった。



林内周遊コースでの展示

途中に食事をとれるコーナーがあることにはなっているのだが、何しろ見学者が多いので無いに等しく、午後2時頃まで昼食もとらずにひたすら歩いた。しかも、平坦な道ではなく、峠や坂もある山道である。以前に来たことのある人は、ホテルでの朝食のパンをこっそり持ってきて食べたと後から聞いた次第である。



フォワーダの実演 (大型である)

展示会場は大きく3地区から成っていた。入口付近にはチェーンソーや環境対策機器、コンテナ苗用具、トラクター等のアタッチメントなどいわゆる林業関連の中小器具の展示コーナーが設けられ、約60社の展示がなされていた。

電動チェーンソーや策張りでの張力計、トラクターのアタッチメントなど多くのものが展示され、その中に苗木の先端部に洗濯バサミみたいなものを付けて展示しているものがあったが、鹿等の食害を回避するものようだった。

2番目の展示コーナーが総延長8kmにも達する周遊コースに沿っ

た展示で、ここにはフォワーダなど大型機械が展示されて、実演されていた。74社が展示しており、

フォワーダやトラクター牽引型などの大型のホイール系運搬車を約20社が展示しており、キャタによる運搬車の展示は少なかつた。

大型であるこれらの機械は日本の森林では走行すらできないだろうと思えた。

タワーヤード等の架線系搬出機械の展示は約15社であつた。

その展示箇所は見学コースの終点の方で、そこに着いたのは大分疲れた頃であつた。

架線であることから、近づいてみることはできず、少し離れたところから、搬器の移動や丸太の巻上げ、荷下げを見学するのだが、そのスピードが早く、そのことをセールスポイントにしていた。

また、搬器の性能についても盛んに説明していたが、会話が出来ないのもよく理解できなかったのが残念であつた。

トラック等の展示は約5社、ハー

ベスタ等の伐木機械は約10社、伐根や枝条を整理する機械は約5社が展示していた。

ハイランダー社のハーベスタも6輪のもので大きすぎて日本の森林での使用には疑問を感じた。4輪のものは、日本では(株)柴田産業(当組合員)が導入しているのでそちらを見てくれとのことであつた。

特異なものとしては、大きな塩ビパイプを半割りしたような修羅や馬搬の実演もなされており、丸太搬出の歴史を展示していると思ふ解した。

3番目の展示コーナーがバイオマスエネルギーコーナーであり、約15社の展示がなされていた。

ここでの展示は、移動式チップパーと薪製造機であつた。

移動式チップパーはトラックにチップパーを搭載したものが主流であり、容易に移動しながらチップング出来ることをアピールしていた。

また、薪製造機は丸太を一定の長さに切断し、それを割って薪を作る機械で、力を入れた展示がな



トラック登載型移動式チップパー

されていた。

翌日の午前中も機械展見学で、前日回れなかつたところを見ると言うことであつたが、雨模様であることや前日一通りは見てしまつたことなどから、入口に近いコーナーの展示を見た人が多かつたようだ。私は、実演されている森林の中に入り、その林分構成を見ることとした。

なお、世界的機械展を視察した記念に、プロッセサーを1台購入した。

といつても緑色の模型であり、持ち返つて組合事務所の入口に飾っている。

# トピックス

## 年明けの森林林業中央研修会で下山理事長が講演

平成27年度森林林業中央研修会(主催・全国国有林造林生産業連絡協議会、全国素材生産業協同組合連合会)は平成28年1月8日、東京都内の会場で開催される。

林野庁幹部、東京大学大学院教授酒井秀夫氏、N J素流協下山理事長が講師を務め、下山理事長は当組合の事業経過と今後の事業展開の方向について講演する。

## 原木安定供給中央研修会に出席

平成27年度原木安定供給中央研修会(主催・二財)日本木材総合情報センター)が11月11日、12日の両日東京都内において開催され、東北地区広域原木流通協議会の構成員1名とN J素流協職員2名が出席した。

大口需要等に対応した国産材の安定的・効率的な供給体制の構築に向け

た「原木の増産」と「原木の生産、流通コストの削減」をテーマに、基調講演、事例報告、集団討議が行われた。

## 合板技術講習会で高橋常務理事が講義

(公社)日本木材加工技術協会合板部会と日本合板工業組合連合会の主催による「合板技術講習会」が11月17日、18日の両日東京都内において開催され、関係者約100名が出席した。

「次世代社会を築く国産合板の新たな可能性」をテーマに12名の講師による講義が行われ、N J素流協高橋常務理事が「東北地方における国産材原木の流通について」と題し講義を行った。

## 低コスト再造林セミナーで実証成果を報告

森林総合研究所東北支所主催のセミナー「ここまでする再造林の低コスト化―東北地域の挑戦―」が11月24日、盛岡市内において開催され、10名の講師による研究成果の報告と

3名のパネリストを招いてのパネルディスカッションが行われた。N J素流協からは、「民有林における低コスト植栽方法」と題し、外館経営企画部長が実証事業の成果を報告した。

## 車両系木材伐出機械等の特別教育講習会を開催

N J素流協は、労働安全衛生規則に基づく車両系木材伐出機械等の特別教育講習会を11月16日から12月2日にかけて開催した。日程、講習内

表 特別教育講習会開催状況

受講区分	会場	受講者数	開催日	講師
学科	走行集材機械	13	11月16日	西間 薫 氏
	伐木等機械	13	11月17日	安倍 和明 氏
	簡易架線集材装置等	15	11月18日	畠山 辰也 氏
実技	簡易架線集材装置等	2	11月26日	西間 薫 氏
	走行集材機械	2	12月 1日	畠山 辰也 氏
	伐木等機械	2	12月 2日	安倍 和明 氏

容等は表のとおり。



搬器を操作する受講生



基本的なアイスプライスの作り方を習得

このうち、簡易架線集材装置等の実技講習では西間薫氏が講師となり、ワイヤーダの設置から索張り、搬器の操作、荷掛け、荷外し、撤収まで一通りの操作方法を学んだ。次に、ワイヤーロープ加工の実習に移り、受講生は初めてのワイヤー編みに苦労しながらも、丁寧に作業を進めていた。

**岩手県森林・林業会議  
林業関係施策要望**

岩手県森林・林業会議は11月9日、盛岡市内において県関係幹部職員に対する提案要望、意見交換会を行い、この中でN J素流協は、「林地残材利用の実現」等について要望した。

27日には、平成28年度林業関係施策要望として、岩手県議会及び岩手県農林水産部に対し、①再造林強化対策の推進②用途に応じた原木の適正かつ安定的な供給③治山林道事業の推進④就労の場の確保、の4項目を要望した。続いて岩手県議会森林・林業政策研究会の研修会が開催され、東北森林管理局長瀬戸宣久氏の「林業の成長産業化による地方創生」と題する講演が行われた。

**国有林素材 入札結果**

11月に実施した国有林素材山元委託販売の入札結果は次表のとおり。

**表 国有林素材山元委託販売 入札結果**

市日：平成27年11月16日(月)  
市場：岩手南部森林管理署(第5回)

(参加者人数 12名)

売払番号	樹種	長級(m)	径級(cm)	等級	本数	材積(m <sup>3</sup> )	応札枚数	土場
605-01	スギ	4.00	16-44	込	465	97.998	2	湯ノ沢
605-02	スギ	4.00	14-40	込	462	100.566	2	湯ノ沢
605-03	スギ	4.00	14-38	込	445	93.018	2	湯ノ沢
605-04	スギ	4.00	14-44	込	186	51.298	2	湯ノ沢
605-05	スギ	4.00	14-40	込	134	33.110	1	湯ノ沢
605-06	スギ	4.00	16-38	込	130	36.034	1	湯ノ沢
605-07	スギ	4.00	14-36	込	122	27.448	1	湯ノ沢
605-08	スギ	4.00	14-42	込	207	49.152	2	湯ノ沢
605-09	スギ	4.00	14-42	込	162	53.366	2	湯ノ沢
605-10	スギ	4.00	16-42	込	173	53.588	2	湯ノ沢
605-11	スギ	4.00	16-42	込	205	66.006	2	湯ノ沢
605-12	スギ	4.00	18-50	込	127	51.018	2	湯ノ沢
605-15	スギ	3.00	16-28	中玉	351	42.599	2	二又岳
605-16	スギ	3.00	14-32	中玉・中A	486	60.852	3	猪岡
605-17	スギ	2.00	16-40	込	332	31.750	1	湯ノ沢
605-18	スギ	2.00	14-40	込	408	37.560	2	湯ノ沢
605-19	スギ	2.00	14-44	込	124	14.249	1	湯ノ沢
605-20	スギ	2.00	14-42	込	253	22.266	1	湯ノ沢
605-21	スギ	2.00	14-44	込	257	28.244	1	湯ノ沢
605-22	スギ	2.00	14-50	込	729	91.294	3	葛丸川
605-23	カラマツ	4.00	16-42	3等	482	95.708	4	湯ノ沢
605-24	カラマツ	4.00	16-36	3等	260	50.076	4	湯ノ沢
605-25	カラマツ	4.00	14-32	3等	184	31.362	4	湯ノ沢
605-26	カラマツ	4.00	14-32	3等	239	45.720	3	湯ノ沢
605-27	カラマツ	2.00	14-34	3等	412	28.775	3	湯ノ沢
605-28	スギNA	2.00		低質	層積	20.916	3	湯ノ沢
605-29	スギNA	2.00		低質	層積	40.219	3	湯ノ沢
605-30	スギNA	2.00		低質	層積	15.422	1	湯ノ沢
605-31	スギNA	2.00		低質	層積	29.597	3	湯ノ沢
605-32	スギNA	2.00		低質	層積	51.156	3	湯ノ沢
605-33	スギNA	2.00		低質	層積	15.561	2	湯ノ沢
605-34	スギNA	2.00		低質	層積	2.785	1	湯ノ沢
605-35	スギNA	2.00		低質	層積	5.040	1	湯ノ沢
605-36	スギNA	2.00		低質	層積	52.051	3	湯ノ沢
605-37	スギNA	2.00		低質	層積	29.837	3	湯ノ沢
605-38	カラマツNA	2.00		低質	層積	21.420	4	湯ノ沢
605-39	カラマツNA	2.00		低質	層積	38.808	4	湯ノ沢
605-40	カラマツNA	2.00		低質	層積	35.053	4	湯ノ沢
605-41	カラマツNA	2.00		低質	層積	15.926	4	湯ノ沢
605-42	カラマツNA	2.00		低質	層積	23.940	4	湯ノ沢
605-43	カラマツNA	2.00		低質	層積	29.635	4	湯ノ沢
605-44	カラマツNA	2.00		低質	層積	51.408	4	湯ノ沢
605-45	LA	2.20		低質	層積	7.470	4	湯ノ沢
605-46	LA	2.20		低質	層積	37.535	5	湯ノ沢
605-47	LA	2.20		低質	層積	15.978	5	湯ノ沢
合計					7,335	1,832.814		

市日：平成27年11月25日(水)  
市場：岩手北部森林管理署(第4回)

(参加者人数 14名)

売払番号	樹種	長級(m)	径級(cm)	等級	本数	材積(m <sup>3</sup> )	応札枚数	土場
104-01	スギ	4.00	14-34	込	293	46.868	3	稲庭岳
104-02	スギ	2.00	16-54	込	135	19.821	2	芦名沢
104-03	スギ	2.00	14-38	込	312	32.322	2	芦名沢
104-04	アカマツ	4.00	30-46	3等	40	19.600	2	芦名沢
104-05	アカマツ	4.00	28-52	3等	25	12.210	1	芦名沢
104-06	アカマツ	3.00	16-46	3等	187	38.986	1	芦名沢
104-07	アカマツ	3.00	18-42	3等	63	13.328	1	芦名沢
104-08	アカマツ	4.00	14-26	込	162	22.800	3	上坊山第二
104-09	アカマツ	4.00	16-28	込	371	60.302	3	上坊山第二
104-10	アカマツ	4.00	16-26	込	77	12.220	2	上坊山第二
104-11	アカマツ	4.00	18-24	込	22	3.584	2	上坊山第二
104-12	アカマツ	4.00	14-28	込	216	33.812	3	上坊山第二
104-13	アカマツ	2.00	14-28	込	583	41.270	4	上坊山第二
104-14	アカマツ	2.00	16-34	込	202	15.447	3	上坊山第二
104-15	アカマツ	2.00	16-28	込	260	19.020	3	上坊山第二
104-16	アカマツ	2.00	18-38	込	222	31.512	5	山内
104-17	アカマツ	2.00	18-42	込	667	89.206	5	山内
104-18	トドマツ	4.00	14-48	3等・4等	178	51.498	2	上坊山第二
104-19	アカマツNA	2.00		低質	層積	31.374	5	稲庭岳
104-20	アカマツNA	2.00		低質	層積	21.294	5	芦名沢
104-21	アカマツNA	2.00		低質	層積	36.842	5	芦名沢
104-22	アカマツNA	2.00		低質	層積	43.747	5	芦名沢
104-23	アカマツNA	2.00		低質	層積	24.343	5	芦名沢
104-24	アカマツNA	2.00		低質	層積	21.773	5	芦名沢
104-25	アカマツNA	2.00		低質	層積	19.732	5	芦名沢
104-26	アカマツNA	2.00		低質	層積	46.570	5	上坊山第二
104-27	アカマツNA	2.00		低質	層積	110.716	5	上坊山第二
104-28	アカマツNA	2.00		低質	層積	50.803	5	上坊山第二
104-29	アカマツNA	2.00		低質	層積	59.674	5	上坊山第二
104-30	アカマツNA	2.00		低質	層積	24.192	5	上坊山第二
104-31	アカマツNA	2.00		低質	層積	62.483	5	上坊山第二
104-32	アカマツNA	2.00		低質	層積	17.942	5	山内
104-33	アカマツNA	2.00		低質	層積	57.506	5	山内
104-34	LA	2.20		低質	層積	36.728	3	高曲沢
104-35	LA	2.10		低質	層積	42.442	3	芦名沢
104-36	LA	2.10		低質	層積	6.866	2	上坊山第二
104-37	LA	2.10		低質	層積	35.950	3	上坊山第二
合計					4,015	1,314.783		

# 今月の名木・巨木 31

(青森県五戸町)

## 上村(わむら)のカシワの木

所在：青森県三戸郡五戸町倉石中市

上村(わむら)のカシワの木は、青森県五戸町の「旧圓子家住宅」敷地内にある。

樹高約22m、幹周り540cm、推定樹齢750年(現地案内板より)とされ、環境省の巨樹・巨木林データベースによると幹周り日本一のカシワの木である。

カシワは北海道、本州、四国、九州に分布する落葉広葉樹で、西日本には少ない。北海道では開拓



の際、自生していたカシワの木を防風林として残し、農地を強風から守ったという。また新芽が出るまで枯れた葉を落とさないことから「縁起が良い木」とされ、葉は子孫繁栄を願い「かしわ餅」に使われている。

圓子家は、天正年代(戦国時代)に圓子村(現在の岩手県九戸郡軽米町)に住んでいた武家である。九戸政実の乱で政実側につき敗れたため一度はお家断絶となったが、その後許されこの地に移ったと伝えられている。

この住宅は安政年間(江戸時代末期)に建てられたとみられ、保存状態が非常に良いことから、平成13年に青森県の重宝に指定されており、事前に予約すると建物内を見学することができる。問い合わせは五戸町教育委員会まで。

### 「林業・木材製造業 労働災害防止規程」 変更のポイント②

▽車両系木材伐出機械における作業時の立入禁止(新設)①

伐木等機械(フェラーバンチャ、ハーベスタ、プロセッサ、グラブプル等)による作業を行う場合には、次の場所に作業者を立ち入らせてはならないこととなった。

①伐木等機械による作業を行っている場所の下方で、原木の転落又は滑りによる危険を生ずるおそれのある場所

②作業中の伐木等機械又は扱っている原木に接触するおそれのある箇所

③伐倒作業中は、運転席から伐倒

する立木の高さの2倍以上を半径とする円の範囲内(図1)

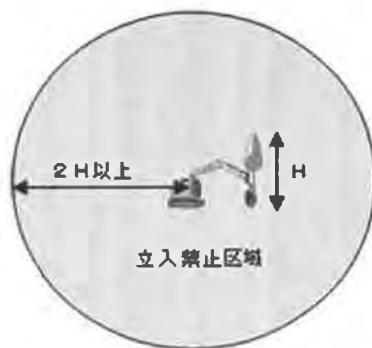


図1 伐倒作業中の場合

④造材作業中は、運転席からブーム、アームを最大に伸ばした距離の2倍以上を半径とする円の範囲内と原木を送る方向(図2)

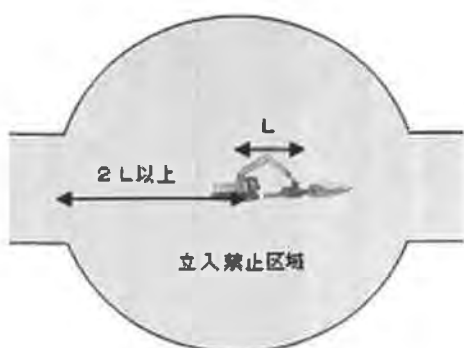


図2 造材作業中の場合

## 平成27年11月分の販売実績

樹種	合板用			その他 製材用等			計		
	当月出荷量 (m <sup>3</sup> )	前月比 (%)	前年同月比 (%)	当月出荷量 (m <sup>3</sup> )	前月比 (%)	前年同月比 (%)	当月出荷量 (m <sup>3</sup> )	前月比 (%)	前年同月比 (%)
スギ	7,681	95.0	6,335.0	6,618	108.0	119.1	14,299	100.6	121.2
カラマツ	2,402	62.3	4,327.9	1,127	230.1	79.3	3,528	81.2	100.6
アカマツ	1,050	43.1	2,272.3	145	100.3	32.4	1,195	46.3	42.1
その他針葉樹	98	107.4	0.0	6	*	*	104	113.5	*
広葉樹	0	*	0.0	241	140.2	145.7	241	140.2	145.7
合計	11,231	77.6	104.7	8,136	117.4	107.2	19,367	90.5	105.8

樹種	バイオマス用素材		
	当月出荷量 (t)	前月比 (%)	前年同月比 (%)
スギ	2,742	83.7	69.6
カラマツ	2,296	116.9	112.9
アカマツ	2,212	231.4	389.4
合計	7,250	117.0	110.9

樹種	今年度累計			
	合板用 (m <sup>3</sup> )	その他 製材用等 (m <sup>3</sup> )	計 (m <sup>3</sup> )	バイオマス (t)
スギ	56,773	46,348	103,121	15,204
カラマツ	29,260	7,506	36,767	15,904
アカマツ	17,063	977	18,040	8,443
その他針葉樹	354	112	466	0
広葉樹	0	1,221	1,221	0
合計	103,450	56,164	159,614	39,552
目標達成率 (%)	55.9	66.1	59.1	37.5
計画量	185,000	85,000	270,000	105,500

注) \*印は前月又は前年同月実績がなかったことを示す。

## 【平成27年11月の需給動向】

- スギ製材原木の引き合いが徐々に増えている反面、集成材・合板用原木の荷動きは、まだ悪い。
- カラマツ原木の引き合いが徐々に増え、山元入札価格も上昇傾向。12月以降も原木不足は続く。
- アカマツ原木は少量の引き合いはあるものの、まだまだ工場の受入は厳しい状況。

## 落穂拾い

最近の新聞、テレビ等でTPP(環太平洋経済連携協定)についてのニュースが出ない日はない。日本はこの協定締結に向けて交渉に参加してきた。この問題は、わが国が今後将来にわたって世界の中でどう存立していくかという大きな問題であることは間違いない。TPPは、アメリカを中心に11か国が交渉する自由貿易に関する協定である。交渉の過程を見ると、各国の事情や思惑が交錯して一時は協定締結も危ぶまれる場面もあった。やっとな参加国の合意がなされ締結の運びになったのである。

だが我が国内では現在も、賛成側、反対側の議論百出であり、とくに農産物等の一次産業に関わる関税撤廃が大きく取り上げられている。アメリカにおいても議会でこの協定締結についての批准が必要であり、予断を許さない状況とも言われている。この協定は、基本的にはすべての関税を撤廃することが目標であり、関税を直ちに撤廃するもの、ある一定期間内で段階的に撤廃するものの違いはあるが、最終的には完全撤廃するということがある。ところが、TPPに関する議論においては、輸出入物の関税というものの対象なのではなく、協定の条項の中には「投資家保護条項(ISD条項)」と「自由化不可逆規定(ラチェット条項)」が入っている。前者においては、日本が定める種々の規制(国内法)や商習慣が無視される恐れがあり、後者においては、一旦自由化したものは後退できないとされ、さらに一度参加した国は脱退しなくとも、全参加国の同意がなければできないとも言われている。このTPPの内容は複

雑多岐で、なお国内で熱心な議論が必要であることは論を待たない。

一方、世界的にグローバル化が進んでいる。グローバル化とは、一口で言えば、世界が一体化する動き(傾向)で、自由貿易や市場主義経済を全世界に広げていくということである。その意味では、TPPもグローバル化の進展の一環であるといえる。すなわち世界が日本に浸透してくることであり、もちろん日本が世界に浸透していくこともある。日本の自動車産業、電気産業等々を見れば、シヤカリキに奮闘する姿が目に見えてくる。余談になるが、中国人が「グローバル化」を「全球化」と呼ぶそうである。ある識者が言うには、中国人は全球化というとき、それは避けられない環境変化であり、そうであるならば、そこに機会を求めていこうという意欲を表している、という。だが、日本人がグローバル化というとき、そこから逃れたい、もしくは異質のものに巻き込まれたくないという感情になる人が比較的多い。反面、現実には日本はグローバル化で利益を得ているし、またグローバル化の流れを止めることもできないのである。さらに、その識者は言う。「明治の日本人は、西欧の考え方(概念)を理解し、そこに立ち向かおうとした。現在、全世界が全球化に立ち向かおうとしている。人々に機会を与える全球化は、すでに起こっていることで、後戻りができない。現在、明治の気概に欠けていることが、全球化をチャンスにできない日本を作っているのではないか」

落穂拾い子は、先々月号のこの欄に記した言葉「最も強い者や最も賢い者が生き残ったのではない。最も変化に賢明だった者が生き残った」を思い出した。